

東京外大、科学大、一橋大、お茶大

四大学未来共創連合キックオフシンポジウム

東京外国語大学、東京科学大学、一橋大学の三大学連合に、新たにお茶の水女子大学を加えた四大学未来共創連合（FLIP）が発足し、2月12日にキックオフシンポジウムが科学大湯島キャンパスで開催された。

はじめに、科学大の大竹尚登理事長が挨拶し「FLIPには、ひっくり返す」という意味がある。これだけ世界が動いている中、一年後は想像しづらいが、つくりたい未来を描くのは自由だ。四大学で現状をひっくり返して、そこに向かっていく。これには大きな価値がある。今、世界あるいは日本に求められているのは、そういった違う道を、しかも、良い道を選んでいくことだ」と語った。

来賓として出席した文部科学省の先崎卓歩大臣官房審議官（高等教育局担当）は「大学は、社会を動かす変革の原動力だ。この連合が未来を担うクロスオーバーな人材を育成するためのモデルケースとして、全国の大学に刺激を与え、世界を照らす新たな知の光となることを切に願っている」と述べた。



Future Leading Innovation Partnership（四大学未来共創連合）の頭文字をとって「FLIP」。東京科学大湯島キャンパスに4大学の学長、教授らが参加してFLIPキックオフシンポジウムが開かれた



中野一橋大学長



佐々木お茶大学長



先崎審議官



大竹科学大理事長



日比野藝大学長



春名東京外大学長



田中科学大学長

FLIP教育ワーキンググループの関口秀俊科学大執行役副学長から、新たな共同教育プログラム「FLIP複合領域コース」について報告があり、4月から開始する「FLIP国際協力コース」の紹介があった。修了要件は12単位以上で、コース構成科目のうち所属大学以外の三大学開設科目から各2単位以上選択する必要があることが特徴だ。

また、同じく4月から、特定のプログラムに所属しない学生であっても、FLIP各大学が指定する他大学の授業科目を1科目から学士、大学院課程ともに履修可能とする予定。授業以外にも四大学の学生が相互に交流できる機会を創出するため、学生交流協定を締結したことにについても報告があった。

基調講演では、東京藝術大学の日比野克彦学長が「アートと社会をつなぐ」と題して講演を行った。近年、アートの役割が変化しており、新たな役割が芸術に生まれ始めていると指摘。地域の魅力の可視化やコミュニティの形成などアートによって地域の特性が価値化され、社会的課題の解決につながると強調した。また、4月から藝大で開始する大学院映像研究科修士課程「ゲーム・インタラクティブアート専攻」についても紹介があった。

その後、日比野学長と四大学の教授をパネリストに、「分断を超えて」をテーマとしてパネルディスカッションを実施した。